

# 大曲皮フ科ニュース

2006年10月16日号

## 盛り上がったしみ（脂漏性角化症）に

## 対する治療とは？




前号に続いて、しみの治療について取り上げます。お顔のしみの多くは、盛り上がりがありませんが、長い間放置しておくと、盛り上がってることがあります。

★ほくろとの区別は

### どう行う？★

その殆どは良性で、直径1-2cmほどの平べったい盛り上がりで、脂漏性角化症とか、老人性いぼといって、80歳以上の方ではほぼ全員に認めます。顔や頭、胴体などの皮脂の分泌の多い部位に多く見られます。色は褐色から黒褐色までさまざまです。掌蹠には生じません。表面はいぼのようなかぼこがあるものもありますが、左の写真のような平滑なものもあり、この場合は、一見、ほくろに似ています。時には、悪性のほくろ（悪性黒色腫）に似ていることもあり、昔は切り取って調べていました。

ところが最近ではダーモスコピーで見るだけで、この区別がつくようになりました（右の写真）。これは、今年、保険が効くようになった検査で、痛みもありません。表面に、ジェルをぬってから、レンズをぴったり当てて観察すると、皮フ表面で起こる光の散乱をなくすことができるために、それより少し深部にある構造が肉眼よりも詳細に判るものです。

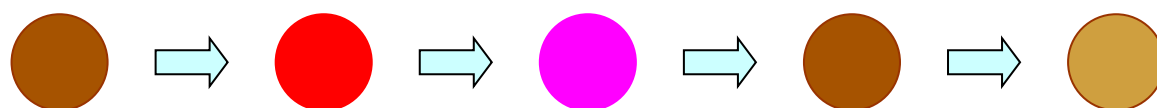
肉眼でははっきりしなかった、沢山の白く丸い点が見えてきました（図の ）。脂漏

性角化症は、毛穴の細胞出身のできものなので、白にきび様の構造が出来ます。これは脂漏性角化症にしか見られないので、良性・悪性を含めたほくろではないことがわかり、ほっとしました。

なぜ、私はほっとしたと思われませんか？脂漏性角化症は、黒い粘土を皮膚の上にくっつけたようなもので、まわりの皮膚よりも深いところには細胞が存在しませんので、治療も簡単で、リスクが少ないのです。それに比べて、ほくろは、皮膚の厚さ全体に渡って、深く細胞が存在することが多く、浅くとると再発があるので、皮膚を繰り抜くように取らなければならないので、ある程度の傷跡は残るのです。

## ★最もよく行われる治療は？★

炭酸ガスレーザーなどのレーザー治療により焼き取る治療は、まわりや深い部分に熱を伝えずに、できものの部分だけを焼くことが出来るので、大変きれいに治ります。治療の30分-3時間前から局所麻酔用のテープを貼ると、十分痛みがなく焼くことが出来ることが多いですが、必要に応じて、麻酔の注射を打つこともあります。



レーザー  
焼灼  
前

焼灼直後：まわりの皮膚と同じ高さのじくじくのやけどになっています。

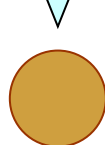
焼灼の10-14日後：盛り上がりのない、色のついていない皮膚が再び出来ました。

焼灼の1ヶ月後：再び、一時的にやけどとしての色がつきます。

やけどの色も、2-6ヶ月で取れて、軽快しました。

照射後、付け薬をつけない場合

上皮化してからすぐに、新陳代謝を良くすることで垢として色の付いた細胞を追い出すトレチノインと、メラニンを作るのを抑えるハイドロキノンの、2種の付け薬を毎日重ね塗りすると、やけどとしての色がつくのを抑えることができます。



炎症後色素沈着を伴わずに軽快しました。

## ★やけどを作らない治療法は？★

やけどを作るのが怖い方には、厚く硬くなる皮膚の病気を、薄くする効果のある、ビタミンD軟膏を毎日塗るだけの方法がお勧めです。赤みや痛みなどなく、だんだん高さも、色も、薄くなっていきます。山形大学皮膚科で多数例治療を行っていますので、その結果をご紹介します。3ヶ月以上塗ると、3割の方では、できものの体積が80%以上の退縮を示し著効しました。また、8割以上の方では、ある程度以上薄くなりました。特に隆起のごくわずかなものでは、消えてしまうこともあり、大変良い方法と考えています。



大曲皮膚科 住所：〒061-1272 北広島市大曲末広 1 丁目 2-1 (セリオ 1F) 電話：011-376-2000 記：院長 梅津 修